

下石神井小学校・石神井南中学校 課題改善カリキュラム 図工・美術

・本小中学校の子どもたちの表現内容や活動の様子から。

大切にしたい力: **イメージをもつ 広げる ふくらませる 深める**
(形・色などをもとに)

学習期		内容	発達と表現	下石神井地域の子供たちに身に付けさせたい力			カリキュラム改善の視点			
[共通事項]				身に付けさせたい力	子供にとってイメージとは	場の設定の工夫や手立て				
I 期	小学校 第1学年	I 期	さまざまな材料・用具体験 見えるもの、聞こえる音など、全身の感覚を使って感じ、絵や立体、工作に表す	下石神井地域の子供たちに身に付けさせたい力 身に付けさせたい力 子供にとってイメージとは 場の設定の工夫や手立て	大切な力: イメージをもつ 広げる ふくらませる 深める (形・色などをもとに)	カリキュラム改善の視点				
	第2学年						<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。 	自分のイメージをもつ 描きながら、つくりながらお話が進んでいくように、イメージをもつ。 描きたいもの、つくりたいものを考えきめる。	<ul style="list-style-type: none"> イメージがもてるように、描きたいものやつくりたいものを思いつきやすい環境を整えたり、題材やその提示方法を工夫する。 題材について友達と話をしたり、歌を歌ったりする場面を用意する。 本や映像などを用意する。 作例を用意することもできるが、イメージをもつことを導くための作例。結果を示す作例ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージをもちやすく、多方面に広がったりふくらんだりする題材を設定する。また、同じ題材でも提示の方法や材料、用具などの扱いによって改善することができる。
	第3学年						<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。 	初めにもったイメージを活かしながら、違うことにも考えを及ぼせる。 友達や他の作品などからも自分のイメージをもったり、広げたりする。	<ul style="list-style-type: none"> イメージをもち、さらにイメージが広がったり、ふくらんだりするような環境を用意したり、題材やその提示方法を工夫したりする。 題材によっては、計画を立てるが、途中のひらめきも生かせるようにする。 つくりながら試行錯誤できるような題材を工夫する。 関連した本や映像などを用意し導入時などに提示する。 作例は、必要に応じて用意する。イメージが広がるように製作途中の作例もよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的には、子供たちが考えたり、選択したり、つくりかえたりできる題材やつくりながらできる形や色から次の発想がうかぶ題材設定を考える。
	第4学年						<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。 	計画性とひらめきをもってイメージを具現化し、さらに広げたり、ふくらませたりする。 他の表現から自分に合う表現を見付け、工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> イメージをもち、さらにイメージが広がったり、ふくらんだりするような環境を用意したり、題材やその提示方法を工夫したりする。 活動の最初のイメージも大切にさせるが、製作中に気が付いたことや思い付いたことを生かせるようにする。 つくりながら試行錯誤できるような題材を工夫する。 関連した本や映像などを用意し導入時また必要な時にも提示する。 作例は、必要に応じて用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の扱いに関しては、創造的に技能の習得ができるように場面に応じた指導、助言をする。
II 期	第5学年	II 期	さまざまな材料・用具体験 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す	身に付けさせたい力 子供にとってイメージとは 場の設定の工夫や手立て	大切な力: イメージをもつ 広げる ふくらませる 深める (形・色などをもとに)	カリキュラム改善の視点				
	第6学年						<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。 	外から受ける事柄からのイメージだけではなく、内面におけるイメージを表す。主題をもち、そこから自分のもつイメージを表す。 自分のもつイメージを表すために材料や用具を適切に扱う。	<ul style="list-style-type: none"> イメージをもち、さらにイメージが深まるように導入時や活動の過程で資料や作例などの提示方法を工夫する。 活動の最初のイメージの充実や活動中の内面的な深まりによるイメージも大切であることが生かせるようにする。 つくりながら試行錯誤できるような題材を工夫する。 関連した本や映像などを用意し、導入時また必要な時にも提示する。 作例は、必要に応じて用意する。イメージが深まるように傾向の似ているものや参考になりそうな作例もよい。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージの具現化をくり返し、発想をしっかりと捉えられるようにする。
III 期	中学校 第1学年	III 期	材料や用具を適切に扱う 感じ取ったことや考えたことを基に、絵や彫刻に表現する	身に付けさせたい力 子供にとってイメージとは 場の設定の工夫や手立て	大切な力: イメージをもつ 広げる ふくらませる 深める (形・色などをもとに)	カリキュラム改善の視点				
	中学校 第2学年						<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 	スパイラルに、時に行きつ戻りつする。	<ul style="list-style-type: none"> 1つのアイディアに固定化しないように発想の発展を促す。 	
	中学校 第3学年					上記の2つの視点を生徒の活動の実態や題材に合わせて指導する。				